

# ソーシャルボンド / ソーシャルボンド・プログラム 外部レビューフォーム

## セクション 1. 基本情報

発行体名:	株式会社オリエントコーポレーション
ソーシャルボンド又はフレームワークの名称:	第 24・25 回無担保社債
外部レビュー者名:	株式会社 日本格付研究所
本フォーム記入日:	2020 年 6 月 24 日
レビュー公表日:	2020 年 6 月 24 日

## セクション 2. レビューの概要

### レビュー対象

本レビューでは、以下の要素について審査し、グリーンボンド原則との適合性を確認した。:

- |  |  |
|--|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 資金使途 | <input checked="" type="checkbox"/> プロジェクトの評価と選定プロセス |
| <input checked="" type="checkbox"/> 資金管理 | <input checked="" type="checkbox"/> レポーティング          |

### ROLE(S) OF Independent External REVIEW PROVIDER

- |                                    |  |
|------------------------------------|--|
| <input type="checkbox"/> セカンドオピニオン | <input type="checkbox"/> 認証                    |
| <input type="checkbox"/> 検証        | <input checked="" type="checkbox"/> スコアリング/格付け |
| <input type="checkbox"/> その他:      |  |

注: 複数のレビュー、異なる提供者がいる場合、レビューごとに個別のレビューフォームを提供してください。

## レビューのサマリー 及び 評価レポート全文への URL リンク

株式会社オリエントコーポレーションは、1954 年創業の信販会社で、カード・融資事業、決済・保証事業、個品割賦事業、銀行保証事業の 4 つの基幹事業を展開している。特にオートローンやショッピングクレジットの取扱高および銀行保証残高は業界トップクラスである。

オリエントコーポレーションは、「わたしたちは信頼関係を大切にし、お客さまの豊かな人生の実現を通じて社会に貢献する企業をめざします。」という基本理念を掲げ、これまでも、積極的な社会貢献および社内における環境および社会への取り組みを中心とした CSR 活動を実施してきている。

今般評価対象となる債券（本社債）は、オリエントコーポレーションが発行する期間 5 年の無担保社債である。本社債が、ソーシャルボンド原則（2018 年版） および SDGs に適合しているか否かの評価を行う。ソーシャルボンド原則については、国際資本市場協会（International Capital Market Association 以下、ICMA）が自主的に公表している「原則」であって規制ではないことから、いかなる拘束力を持つものでもないが、現時点においてグローバルに広く参照されている原則であることから、同原則への適合性を確認する。また、ソーシャルボンド原則においては、ソーシャルボンドの資金使途およびその社会改善効果（インパクト）と、国際的な持続可能性に係る目標や各国の政策との整合性を重視していることから、同協会が策定した SDGs とソーシャルプロジェクト分類のマッピングを評価における参照指標とする。

本社債の資金使途は、オリエントコーポレーションが提供する学校提携教育ローン（学費サポートプラン）の実行のために調達した資金のリファイナンス（コマーシャル・ペーパーの償還）である。我が国の高等教育にかかる費用は OECD 加盟諸国の中でも高く、家計の可処分所得に対する負担が大きいこと、公的な経済支援制度や奨学金制度だけでは賄いきれないファイナンスニーズがあることなどから、JCR は、民間企業であるオリエントコーポレーションによる教育ローンである学費サポートプランが、日本の高等教育における社会的課題の解決に貢献するものとしてソーシャル性があると評価している。

資金使途の対象となるプロジェクトは経営陣による承認により選定され、適切な体制が構築されていること、本社債の発行から返済まであらかじめ定められた規則のもとで適切に資金管理が行われること、適切な指標を用いて社会改善効果に関する開示が行われる予定であることから、JCR はオリエントコーポレーションの管理運営体制が確立されており、透明性が高いと評価している。

この結果、本社債について JCR ソーシャルファイナンス評価手法に基づき、「ソーシャル性評価（資金使途）」において“s1”、「管理・運営・透明性評価」において“m1”とした。この結果、「JCR ソーシャルボンド評価」を“Social 1”とした。

JCR は、本社債の資金使途は、ソーシャルボンド原則において求められる項目について基準を十分に満たしていると評価している。また SDGs および政府の SDGs に対する具体的施策に貢献し得るものと評価している。

評価レポート全文への URL リンクは以下をご参照。

<https://www.jcr.co.jp/greenfinance/>

## セクション 3. レビューの詳細

レビュー者は、できる限り以下の情報を、コメントの枠を使用し、できる限り提供することが推奨される。

### 1. 資金使途

#### 本項目に係るコメント欄:

i. 本社債の資金使途は、大学や専門学校の学納金を対象とした学校提携教育ローンである。我が国の高等教育にかかる費用は OECD 加盟諸国の中でも高く、家計の可処分所得に対する負担が大きいこと、公的な経済支援制度や奨学金制度だけでは賄いきれないファイナンスニーズがあることから、民間企業による教育ローンの提供は、国民が等しく高等教育を受けることができる「高等教育の充実」に寄与する取り組みとして、SDGs や日本の政策目標に資するものであり、社会的便益が高い。

ii. 資金使途の対象は、ソーシャルボンド原則の適格ソーシャルプロジェクト事業区分のうち、「奨学金を受ける学生」を対象とする「必要不可欠なサービスへのアクセス向上（教育）」に該当する。

#### SBP における資金使途の分類:

- |   |   |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> 手ごろな価格の基本的インフラ設備 | <input checked="" type="checkbox"/> 必要不可欠なサービスへのアクセス(教育)        |
| <input type="checkbox"/> 手ごろな価格の住宅        | <input type="checkbox"/> 中小企業向け資金供給及びマイクロファイナンスによる潜在的効果を通じた雇用創出 |
| <input type="checkbox"/> 食糧の安全保障          | <input type="checkbox"/> 社会経済的向上とエンパワーメント                       |

SBP 以外のタクソノミー(プロジェクト分類)を使用している場合はそれを特定すること。:

### 2. プロジェクトの評価と選定プロセス

#### 本項目に係るコメント欄:

発行体は資金使途について、明確な環境面での目標、プロジェクトの選定基準およびプロセスを定めている。

当該事項は、JCR による評価レポートの中で開示されている。

#### 評価と選定

- |   |   |
|---|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> 発行体の環境面での持続可能性に係る目標が定められている                 | <input checked="" type="checkbox"/> 対象事業が選定基準分類に適合していることを決定するプロセスが文書化されている      |
| <input checked="" type="checkbox"/> グリーンボンドの資金使途としての適格プロジェクト基準が定義され、透明性が確保されている | <input checked="" type="checkbox"/> 事業実施に伴う ESG リスクの可能性が特定され、管理されるプロセスが文書化されている |
| <input checked="" type="checkbox"/> 事業の評価と選定基準の概要が公表されている                       | <input type="checkbox"/> その他  |

#### 責任及びアカウンタビリティに係る情報

- |  |   |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> 評価・選定基準は外部からのアドバイスまたは検証を受けている | <input checked="" type="checkbox"/> 社内で評価している |
|--|---|

その他

### 3. 調達資金の管理

#### 本項目に係るコメント欄:

本社債の発行代わり金は、オリエントコーポレーションによって実行された学費サポートプランの実行のために調達した資金のリファイナンス（コマーシャルペーパーの償還）を用途としており、これ以外の目的に充当される予定はない。

本社債の発行代わり金は本社債専用の口座に入金され、7月月末までに財務部の担当者によりコマーシャルペーパーの償還に充当される。一方で、オリエントコーポレーションは、本社債が償還されるまでの間、適格基準を満たす学校提携教育ローンを本社債の発行金額を超えるよう社内のシステムを用いて抽出し（抽出されたローンプールを「ソーシャルローンプール」という）分別管理を行うこととしている。

分別管理されたソーシャルローンプールは、財務部の担当者が社内システムを用いて月次で残高の管理を行い、財務部長に承認を受けることを予定している。ソーシャルローンプールが社債の発行金額を下回る場合には、財務部の担当者により適格基準を満たす学校提携教育ローンを抽出し、ソーシャルローンプールに追加すること、もしくは当該下回った金額に相当する現金を未充当資金として本社債専用の口座に預け入れることが予定されている。

#### 調達資金の追跡管理:

ソーシャルボンドの調達資金は分別管理され、または適切な方法で発行体によって追跡管理されている。

未充当資金の一時的運用方法について、開示されている。

その他

#### 追加開示事項:

新規投資への充当のみ

既存・新規投資両方への充当

個別の支出に充当

ポートフォリオベースの支出に充当

未充当資金のポートフォリオバランスを開示

その他

### 4. レポーティング

#### 本項目に係るコメント欄:

##### a. 資金の充当状況に係るレポーティング

本社債により調達した資金は、全額が速やかにコマーシャルペーパーの償還に充当されるため、未充当資金にかかる期中のレポーティングは現在のところ想定されない。併せて、本社債が償還されるまでの間オリエントコーポレーションは本社債の発行金額を上回るソーシャルローンプールを分別管理することとしているが、当該ソーシャルローンプールの残高が本社債の発行金額を下回り、実質的な未充当資金が発生する場合には、同社は未充当資金が発生した時点および爾後の充当状況に関してレポーティングすることを予定している。

##### b. 社会改善効果に係るレポーティング

今後、オリエントコーポレーションは年に1回、本社債にかかる社会改善効果に関して、あらかじめ定められた項目を同社のウェブサイト上で開示することを予定している。

## 資金使途のレポートニング:

- 個別プロジェクト・ベース  
 個別債券への紐づけ
- プロジェクトのポートフォリオ・ベース  
 その他

## レポートニング情報:

- 充当金額  
 その他:
- 総投資額に占めるグリーンボンドによる資金  
充当の割合

### 頻度:

- 年に一度  
 その他:
- 半年に一度

## インパクトレポートニング:

- 個別プロジェクト・ベース  
 個別債券への紐づけ
- プロジェクトのポートフォリオ・ベース  
 その他

### 頻度:

- 年に一度  
 その他
- 半年に一度

## レポートニング情報（理論値または実績値）:

- 裨益者数  
 対象となる人数
- その他の指標:  
対象となる学校の件数、貸付金額

## 開示方法

- 財務諸表における公表  
 アドホック（非定期）刊行物における公表  
 レポートニングの外部レビュー
- サステナビリティレポートにおける公表  
 その他:ウェブサイトにおける公表

## 有用なリンク

オリエンテーションのサステナビリティに かかる取り組み	<a href="https://www.orico.co.jp/company/sustainability/">https://www.orico.co.jp/company/sustainability/</a>
JCR のソーシャルファイナンス評価手法	<a href="https://www.jcr.co.jp/greenfinance/">https://www.jcr.co.jp/greenfinance/</a>

## 外部レビューを受けた場合、その種類

- セカンド・オピニオン  
 検証
- 認証  
 スコアリング/格付け

□ その他

レビュー提供者: 株式会社 日本格付研究所

公表日: 2020年6月24日

## ABOUT ROLE(S) OF INDEPENDENT REVIEW PROVIDERS AS DEFINED BY THE GBP

1. **Second Party Opinion:** An institution with environmental expertise, that is independent from the issuer may issue a Second Party Opinion. The institution should be independent from the issuer's adviser for its Green Bond framework, or appropriate procedures, such as information barriers, will have been implemented within the institution to ensure the independence of the Second Party Opinion. It normally entails an assessment of the alignment with the Green Bond Principles. In particular, it can include an assessment of the issuer's overarching objectives, strategy, policy and/or processes relating to environmental sustainability, and an evaluation of the environmental features of the type of projects intended for the Use of Proceeds.
2. **Verification:** An issuer can obtain independent verification against a designated set of criteria, typically pertaining to business processes and/or environmental criteria. Verification may focus on alignment with internal or external standards or claims made by the issuer. Also, evaluation of the environmentally sustainable features of underlying assets may be termed verification and may reference external criteria. Assurance or attestation regarding an issuer's internal tracking method for use of proceeds, allocation of funds from Green Bond proceeds, statement of environmental impact or alignment of reporting with the GBP, may also be termed verification.
3. **Certification:** An issuer can have its Green Bond or associated Green Bond framework or Use of Proceeds certified against a recognised external green standard or label. A standard or label defines specific criteria, and alignment with such criteria is normally tested by qualified, accredited third parties, which may verify consistency with the certification criteria.
4. **Green Bond Scoring/Rating:** An issuer can have its Green Bond, associated Green Bond framework or a key feature such as Use of Proceeds evaluated or assessed by qualified third parties, such as specialised research providers or rating agencies, according to an established scoring/rating methodology. The output may include a focus on environmental performance data, the process relative to the GBP, or another benchmark, such as a 2-degree climate change scenario. Such scoring/rating is distinct from credit ratings, which may nonetheless reflect material environmental risks.